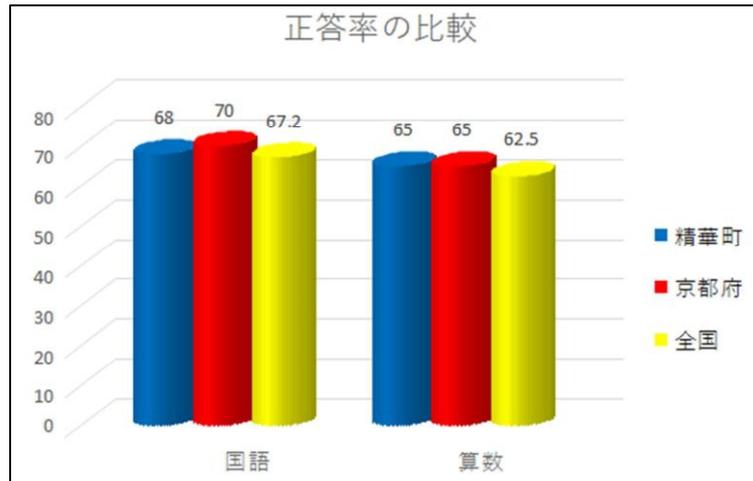


全国学力・学習状況調査の結果

(令和5年4月18日実施)

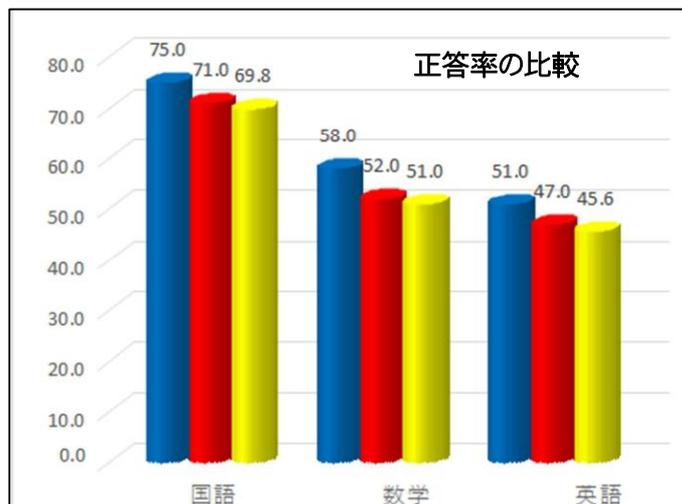
【小学6年生】



国語では、全体の正答率が全国平均を若干上回る結果でした。「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる」問題では、府平均、全国平均より高い正答率となっており、特に優れていました。しかし、「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題では、語句と語句の関係性を捉える力に課題が残りました。

算数では、全体の正答率が全国平均を2.5%上回る結果でした。「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題では府平均、全国平均を大きく上回る高い正答率となっており、特に優れていました。しかし、「(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる」問題では、立てた商と図を関連付けて考え、計算の仕方について捉え直す力に課題が残りました。

【中学3年生】



国語では、全ての問題で府平均・全国平均を上回り、特に「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題について特に優れていました。

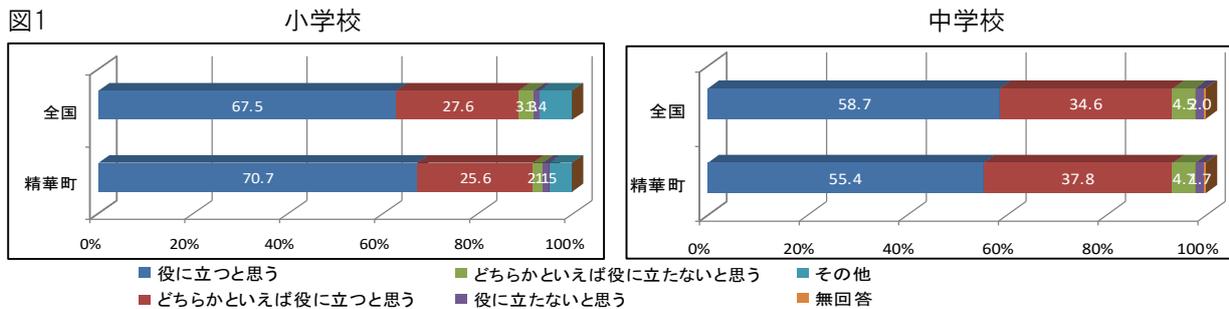
数学では、各領域とも府平均・全国を上回り、特に「数と式」で、「自然数の意味を理解しているかどうかをみる・数と数式の乗法の計算ができるかどうかをみる」問題の正答率が高かったです。

英語では、「書くこと」の領域が特に優れており、「未来表現の肯定文・疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかをみる」問題についての正答率が大変高かったです。しかし、聞くことの領域では、「情報を正確に聞き取ったり短い説明の要点を捉えたりすること」について府・全国平均を下回るなど、課題が残りました。

～児童生徒の情報活用能力の向上につなげる活用へ～

《1 学習状況について》— 学習におけるICT機器の有用性を感じている児童生徒が9割以上 —

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問（図1）では、「役に立つ・どちらかといえば役に立つ」と回答した児童生徒を合わせると9割を超える高い結果となっています。学習の中でタブレットを活用する頻度が増え、それに伴って有用性を感じる場面が多くなってきたことが要因として考えられます。今後は、児童生徒が更にICT機器を学習の道具として日常的に使いこなせるようにしていくことで、今の時代に必要とされる情報活用能力を育成していけるよう、小中学校で授業改善を進めていきます。



《2 学校生活について》— 話し合い活動の充実を感じると8割以上の児童生徒が回答 —

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対し、小学校6年生、中学校3年生ともに約8割が肯定的な回答をしています。学習の中でお互いの意見を尊重し合いながら、協働的な学びを進めることで主体的で対話的で深い学びの実現を目指した授業に今後も取り組んでいくことが重要だと考えます。

《3 自分自身の事について》— 自分の良さを実感できている児童生徒が約8割 —

「自分には良いところがあると思いますか」の質問では「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合が小中学校とも8割を超え、全国平均をやや上回りました。「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問でも、小中学校とも全国平均よりも肯定的な意見の割合が高く、中学生ではほぼ9割の児童が日常の中で幸せを感じると回答していました。

《4 規範意識について》— いじめはどんな理由があってもいけないこと、意識高く —

「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問では、小学校6年生、中学校3年生の回答の約9割が肯定的な回答でした。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問においても、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしています。「いじめ」に関する質問においてもほとんどの児童生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と判断しています。しかし、少数ではありますが、肯定的な回答をしなかった児童生徒がいることから、引き続き道徳教育や人権教育を充実させていく必要があります。

《5 地域社会との関わりについて》— 地域の行事に積極的に参加 —

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問では「どちらかといえば参加している」も含めて小学校6年生の68.6%の児童が、中学3年生で47.9%の生徒が地域の行事に参加しています。毎年この質問についての精華町の児童生徒の参加しているという回答は、全国平均を10%以上高くなっています。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の質問でも、小学校、中学校とも全国平均を大きく上回り、将来の精華町を担う子どもたちが、地域に関心を持ち、地域のことを考えていることがわかります。

《6 家庭生活について》— スマートフォン、ゲームは家庭でルールを決めて —

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1日1時間以上は勉強すると答えた割合が小学6年生で約50%、中学3年生で約70%でした。また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。」の質問では、1日に30分以上読書をする答えた児童の割合が小学6年生で約40%、中学3年生で約25%でした。この結果から、学校の授業時間以外での学習時間が増加することに伴い、読書時間が減少しているのではないかと推測できます。また、SNSの使用や動画サイト視聴などによるスマートフォンなどのデジタル機器の使用時間の増加も、読書時間の減少につながっていると考えられます。精華町子どもの読書環境整備5か年計画(第四次)でも、15歳までの読書習慣の重要性を明記しており、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいく必要があります。